



応援する会事務局  
252-0234  
相模原市中央区共和 4-3-18-401  
代表：小川由起子  
H28. 6. 1(水) 発行

## 🌻 浪江町の現在を訪ねる 🌻

今年もコーヒータイムの訪問を計画し、理事長の橋本さんに連絡したところ、「一緒に浪江町に行きますか？」とお誘いを受け、願ってもないお話に即「行きます！」とお返事しました。

4月半ばの二本松桜まつりの日、二本松市交流センター（コーヒータイムの入っている建物）3階の大山忠作美術館では、東山魁夷をはじめ日本画壇の重鎮の桜を描いた作品が一堂に会する「さくら展」が開催中されていました。コーヒータイムのお店も大盛況です。

朝のミーティングに参加させていただき、久しぶりにお会いした皆さんと言葉を交わした後、お昼前に橋本さんの車で浪江町に出発しました。「今日は帰還困難区域を町外の人が通過できるか、試してみたいと思っている。」とのこと。後述するイベント参加者のバスルートの確保が可能か、まずは今日、私の同乗で試したいとのことでした。

二本松市から浪江への通常ルート、川俣町経由の道を東に辿ります。

私は震災前も後も、浪江町をお訪ねするのはこれが初めてです。浪江町は太平洋側から内陸にかけて北西に長く、帰還の目安となる3つのエリア、すなわち、A避難指示解除準備区域、B居住制限区域、C帰還困難区域の3つに分断され、現在は町内全域で居住（宿泊）することができません。AとBは人口の多かった海岸寄り、H29年3月の居住制限解除を目指し帰還の準備が行われているとのこと。

まずは帰還困難区域の入口に設けられたゲートに到着。橋本さんの通行証と私の身分証を示し、町民でない私が同乗しての通過を交渉しました。係の人が役場に問い合わせたものの、通行証自体に私の名前が記載されていないため、残念ながらOKは出ず、再び川俣町に引き返し、南相馬から高速を使い、浪江に向かうことになりました。



係員が立つゲート。ここから帰還困難区域

高速浪江ICを下りると特にゲートもなく「加倉スクリーニング場」に到着、線量チェックや希望に応じて必要な品の支給を受けられます。橋本さんは線量計と水、手袋や靴カバーを2人分受け取りました。地面等に付着している汚染物質を、外に持ち出さないことが大切なのだそうです。



以前はコンビニだった加倉スクリーニング場

浪江では一昨年からの稲の試験栽培を行っていて、町ではこうした農家さんとタイアップ、大学生を招き田植えや収穫を行うイベントを計画、事業の運営をNPO法人コーヒータイムが受託することになったとのこと。（こんなことを障害福祉サービスの事業所が受託するなんてまずありません。コーヒータイムの懐の深さとネットワーク力に驚きます。）打合せを今日に設定して下さり、私も話し合いに飛び入り見学させてもらうことになった、というわけです。

遠回りしたおかげで到着は大幅に遅れましたが、酒田地区の農家の松本さんご夫妻と農家の男性、役場の若い男性職員の方が待っておられました。松本さんたちは、週に何回か避難先からご自宅に通い、農作業などをされているとのこと。宿泊できないので日帰りです。立派な太い梁のあるお宅の居間で、さっそく打合せが始まりました。大学生たちにどう田植えをしてもらうか、具体的な話が穏やかに進みます。履物は？そりゃ裸足だべ、トイレは？うちのを使ってもらえばいいよ、苗袋の費用は？いやそんなものはいいいよ、と。



話の途中で奥様がお菓子を勧めて下さったのをきっかけに、飾ってあった家族写真のことを聞くと相好を崩され、5人のひ孫さんの写真を見せて下さいました。帰還に向けて、立派な柱や太い梁を生かした家のリフォームを息子さんが計画中と伺いました。

話合いの後玄関先に立つと、庭先に花々が咲き田が広がり、小高い丘に心地よい風が吹き抜けます。男性たちと橋本さんは、納屋で学生たちが田植えの苗を入れる袋のことを相談していました。私は松本さんの奥様と他愛ないおしゃべりをしました。「この辺りは地震の被害は少なく、庭先の納屋がちょっと傾いただけだったんですよ。」「花は強いねえ。毎年ちゃんと咲きますよ。」その風景だけを切り取れば、お天気の良いのんびりした山里の午後、と錯覚しそうになります。

(プロジェクトは、福島大、早稲田大等から約50人の学生さんの参加を得て5月15日に実施されたそうです。)

再び橋本さんの車で役場に行きました。とても立派な建物で、壁面に浪江の工芸品である相馬焼のシンボル、大きな馬が掲げられていました。来春の帰還に向け、既に毎日職員の約半数がここで働いており、居住できないので避難先から長時間通勤されているとのこと。私たちは休日窓口で身分証を示し、帰路に帰還困難区域を通過するため、私の名前も記載された臨時通行証を発行してもらいました。



本日より有効の臨時通行証。右中ほどに私の名前も載っている

今は不通となっている常磐線浪江駅。そこから続く商店街のスナック、ピザ屋さん、家具店、歯科医院・・・、ところどころ崩れたり瓦がブルーシートに覆われていたりするものの、家並は長く続いています。浪江町は私が想像していたより大きな町で、お店も家もたくさんありました。でも、地震で建物に傾きやずれが生じていることもあり、町全体がどことなく不自然で、疲れたとき見る夢の中にいるようです。突然人が去って5年。人の営みが消えるとはこういうことなのでしょう。車や人の気配がするとすれば、「除染作業中」のオレンジ色の幟や、フレコンパックと呼ばれる除染廃棄物の入った黒い袋が目飛び込んできます。途中に作業所コーヒータイムの支店として運営されていた「ぷらっとなみえ」を通過しました。今は固く入口が閉ざされたままです。



海岸近くに向かうと、そこはもう、津波の跡がまだありありと残っていました。宮城や岩手なら震災1年後くらいの光景。瓦礫は片づけられているけれど、家の土台も枯れた立ち木も、流れ残った小学校もそのままです。その小学校は、歴史的にみて津波は来ないと判断で建設された場所だったとのこと。校長先生のとっさの判断で高台に避難し、校内にいた児童職員全員が無事だったそうです。



除染廃棄物の仮置き場。フレコンバックを何段も積み重ね、さらにその上を巨大なシートが覆う。

さらに南下すると丘の向こうに原発の屋根と煙突が見えてきました。原発から4キロ地点以南は通行止めとなっており、不思議なことに、この辺りは下車しても大丈夫なくらい線量が低いのだとのこと。他県と同様の被害だったにもかかわらず、映像や紙面に登場することの少なかった津波被災地の大地と海が広がっていました。



左側が海、丘の真ん中に、東京電力第四原発の建物の白い屋根と煙突がわずかに望める

静かな住宅街に戻ると、そこは橋本さんのお宅でした。丁度除染作業が終わったところで、庭先にまだフレコンバックの黒い袋が置いてあり、工事の方が確認をしているところでした。「マスクと靴カバーと手袋はしてね。体内に取り込まなければ大丈夫だから。くっついてるものを吸い込まないように。」と言われ、その言葉に従いました。入れ替えた土は黄土色で、草1本ありません。木々は丸坊主になっています。建物の周囲や庭先で、橋本さんは一心に線量を測っていました。「ああ、下がった。」「よかった。」という言葉が、何度も何度も橋本さんの口から聞かれました。私は何だか胸がいっぱいになり、道を隔てた向こうの林を眺めていました。



帰途につき、今度はすんなりゲートを通過できました。帰還困難区域の川沿いの山道を、車はひたすら走ります。日本テレビの「ザ! 鉄腕DASH!!」という番組でTOKIOのメンバーが農業をしに通っていた「ダッシュ村」は浪江町にあり、走っている国道の左手の山一つ向こうに位置していたとのこと。いいお天気で西に傾いた春の日差しが柔らかく、川が流れ、芽吹き始めた新緑と山桜の薄桃色に彩られています。時折現れる人の住めなくなった民家の庭先に咲き誇るチューリップやムスカリやパンジー、桜・・・、その色彩が鮮やかすぎて、現実が何なのかよくわからなくなりました。

浪江町の山側、総面積の8割を超す帰還困難区域の線量は高く、まだ手付かずだそうです。恐らく相当な年月帰還は難しいのでは、とのこと。コーヒータイムの本拠地、ログハウスの喫茶店のあった地域はとりわけ線量が高く、訪れるには町民でさえも1週間まえまでに届け出が必要だそうです。

「原発事故後、町民にも本当に様々な立場のいろんな考えの人がいて、それは当然だと思う。田植えプロジェクトのことも、そんなの危ないからやめた方がいいという人もいる。そういう意見もあっていい。でも私は前を向かなきゃ、って思うからやれることをやろうとしているのよね。」

夕刻、二本松のコーヒータイムに到着し、残業中の職員の方たちに迎えられました。昼間の余韻が残る生暖かい館内の空気と人の気配に、世の中とは人の営みの濃さや重さ、笑顔や声の温もりで成り立っていることを思い出しました。

今回の訪問はずっと重く、1月たった今も整理しきれないもどかしさに満ちています。でも、簡単に整理できるわけもなく、ただただ見たことや聞いたことに対し、もっと深く想像するよう努めたいと思うばかりです。そして、それぞれの選択にはそれぞれの理由があり、どれもかけがえのないものであることを忘れないでいたいと感じます。今回初めてお会いした方、どなたも温かく前を向いていらっしゃいました。お会い下さった皆さんには、感謝の言葉もありません。これからも、知っている個人の方を出発点として、コーヒータイム、そして浪江町とかかわり続けていきたいと思っています。(小川由起子)



## ☕初夏・コーヒータイムはさらに進化します

このところ「コーヒータイムに通いたい」との希望があっても、手狭で定員を増やせない状況がありました。これに対応すべく、6月



に本拠地（金色事務所）を広い場所に移転することになったとのこと。喫茶部門は今まで通り二本松駅前です。新たな場所で新たなメンバーを迎え、前を向いて進み続ける姿を、これからもできるだけタイムリーに皆さんにお伝えできるよう、努力していきます。

今年も溝の口3.11 イベントで  
浪江焼きそばを販売しました



☕お便りに対するご意見・ご感想、コーヒータイムへのメッセージを待っています。

☕コーヒータイムに行ってみませんか。スタディツアー、観光のついでにお茶しに、等プランニングにご協力します！

♡この紙面はOMさんのご協力により作成することができました。ありがとうございました。♡

## ..... 賛助会員になって下さい .....

コーヒータイムは、精神障害者就労継続支援B型事業所です。原発事故で浪江町から避難を余儀なくされましたが、半年後に避難先の二本松市で事業を再開、その後も精力的に活動されています。「応援する会」では、みんなで賛助会費を送る活動をしています。ぜひ、賛助会員になって下さい。

ささやかですが、先方の事務量削減のため、以下の口座に振り込んでいただき、まとめて先方口座に入金します。領収書は個人宛、後日ご郵送します。(現会員の方には振込用紙を同封いたしました。)

なお、個人的に振り込みたい場合は振込先をお知らせします。

..... ☆ ☆ ☆ .....

口座番号:郵便振替 00250-7-70788 口座名義:小川由起子  
賛助会費:1口 3,000円

